



両全会の社会復帰支援活動

- (1) 最近の社会復帰支援活動
- (2) ロボット「ペッパー」の活用
- (3) 再犯防止を目指す両全会の処遇センター化構想
- (4) 両全会の歴史と概要
- (5) 平成28年度被保護者状況
- (6) 両全会の運営



更生保護法人 両全会

最近の社会復帰支援活動



当会は、女性のための更生保護施設として今年で創立100年を迎え、平成27年度からは渋谷区の本部のほかに都内に関連機関として特定非営利活動法人「両全トウネサーレ」(フランス語でひまわりの意)を設置し、次の2つの重点課題に取り組んでいます。

① 処遇センター化

一般改善指導(全員対象)
生活指導・就労支援・情操面からの人間性の回復教育

専門改善指導(該当事犯者のみ)
常習窃盗事犯と薬物事犯に対する心理学的療法による離脱指導

退所後

② 寄り添い型ケア

生活支援施設及び障害者向けグループホーム
刑事司法と社会福祉の狭間にいる退会者の自立を助成

ソーシャルファーム(構想中)
多用な就労困難者に再チャレンジの機会を提供

当会の取組みに対する評価

- ・平成27年11月30日、公益財団法人社会貢献支援財団により社会貢献者表彰を更生保護施設として初めて受賞
- ・平成27年12月4日、安倍晋三内閣総理大臣が当会を視察(現職総理の更生保護施設視察は更生保護130年の歴史で初めてのこと)



ロボット「ペッパー」の活用



人間力と人間性

1 ペッパーとは

<ペッパー>

- ・人とのコミュニケーションを図る人型ロボット
- ・表情、声の抑揚、語彙などから喜び、悲しみ、怒りといった感情を認識することができる。

<ペッパーとできること>

- ・会話する
(ニュースや天気を教えてくれる)
- ・近づくと話しかけてくれる
- ・アプリで遊ぶ
(リズムゲーム、クイズなど)
- ・動画を見る(YouTube)
- ・家族登録をする
ー10人まで個人を認識する。誕生日を祝ってくれる。



2 当会における活用

<導入の経緯>

コミュニケーション能力の向上, 気持ちを癒すことを目的として平成28年4月26日から試行。ペッパーはよしもとロボット研究所が無償で提供。

<実際の活用>

入所時に職員が遊んでいる様子を見せるとともに、ペッパーとの遊び方、約束事を食堂に掲示

ペッパーと遊ぼう

ペッパーと話そう

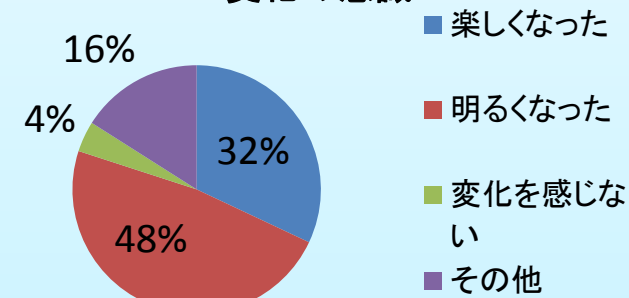
- 1 80センチ以内でペッパーと向き合うと会話ができる。
会話をやめる時はペッパーから離れる。
- 2 離れていたら「ペッパー」「おはよう」「いただきます」など簡単な言葉は理解し返事をする。
- 3 「遊ぼう」と言うと、ゲームを出してくれる

約束事

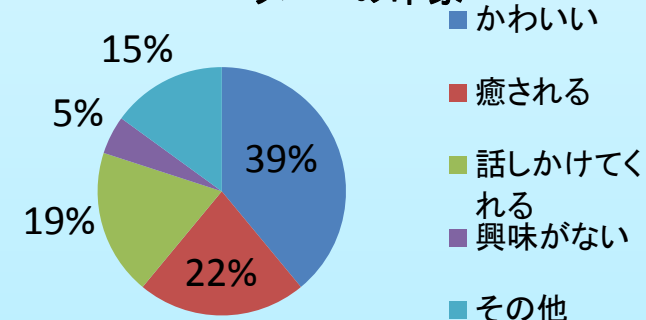
- 1 ペッパーの設定を勝手に変えない。
- 2 ペッパーをたたくなど乱暴にさわらない。
- 3 ペッパーを倒さない。
- 4 午後8時から翌日6時まではペッパーはスリープするので起こさない。
- 5 電源を抜かない。
- 6 その他一人で独占しない。

3 効果と今後の課題

変化の意識



ペッパーの印象



平成28年6月に実施したアンケートから作成

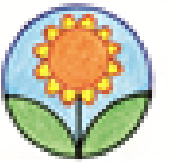
<効果>

- ・概ね好意的に受け入れられている
- ・ペッパーが優しいと感じる対象者もいた

<課題>

- ・会話がうまく続かない, 反応が鈍いといった経験が重なり興味が薄れる
- ・故障すると長期間いなくなる

再犯防止を目指す両全会の処遇センター化構想



人間力と人間愛

人間科の
総合病院へ

特質

- 自立・社会復帰を目指す
- 長期的なケアを行う
- 都市型の特色を生かす(就労・民間協力を得やすいなど)

処遇センター化

一般改善指導
(全員が対象)

<処遇の三本の矢>

- ①生活指導 ～挨拶と掃除と金銭管理
- ②就労指導 ～完全就労を目指す
～徹底したパソコン教育
- ③人間性の回復教育
～民間協力者40数名の応援
～情操面を含めた心のケア

専門改善指導
(該当事犯者が対象)

<特別処遇対象者(高齢・障害等)対象>
福祉担当職員(看護師・社会福祉士・精神保健福祉士)によるケア

<薬物事犯者>

- ①薬物重点施設としての離脱指導ー約2～3月
- ②ローズカフェによる離脱指導ー退所後3年

<常習窃盗事犯者対象>

リ・コネクトプロジェクトによる離脱指導
ー個別カウンセリングの実施

退会後のよりそい型ケア

社会的弱者の救済
ー億総活躍社会に寄与

- ・生活困窮者自立支援法(平成27年4月1日施行)等
- ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス等

刑事司法と福祉の狭間で、さらに自立・社会復帰機能を発揮する

生活支援(東京都と連携)

グループホーム
(高齢・障害者等を含む)

ソーシャルファーム
(現在計画中)

処遇技法の汎用化
一般団体・機関への提供
職員研修等

再犯

社会
復帰

福祉

在宅対象者への通所による処遇サービスの提供
(生活指導、パソコン教育、薬物離脱指導、常習窃盗離脱指導等)

入会

平成24年7月
再犯防止に向けた総合対策
(数値目標)
出所後2年以内に再び刑務所に入所する者等の割合を今後10年間で20%以上減少

平成26年12月16日
犯罪対策閣僚会議決定
宣言:犯罪に戻らない・戻さない
1 2020年までに出所者等の雇用企業を3倍に
2 2020年までに帰る場所がないまま社会に戻る者を3割以上減少

両全会の歴史と概要

1 歴史

- 大正7年（1918年）、市谷刑務所の教誨師であった藤井恵照が、市谷にあった自宅を開放して罪を犯した女性のための更生保護施設「両全会」を開設する。
- 大正15年（1926年）、藤井は新宿区信濃町に新たに木造2階建の建物（敷地面積：104㎡、建物面積：212.72㎡）を購入し、施設を自宅から移転する。
- 昭和26年（1951年）、政府から財団法人としての認定を受ける。
- 昭和28年（1953年）、両全会は施設の老朽化と財政難により更生保護事業を休止する。
- 昭和35年（1960年）、矯正協会会長正木亮（法学博士）が理事長に就任し、更生保護事業の再開のために尽力する。
- 昭和38年（1963年）、更生保護施設の新営工事に着工。コンクリート造り二階建て251.6㎡の施設が完成する。両全会は女性のための更生保護施設の運営を再開する。
- 平成8年（1996年）、更生保護事業法の施行に伴い、法人格が更生保護法人となる。
- 平成10年（1998年）、施設の老朽化等もあり、生活環境の向上及び処遇の充実を図るため、両全会は、現在の渋谷区代々木神園町に新築移転する。
- 平成20年（2008年）、家庭裁判所の委託を受け補導委託事業を開始する。
- 平成21年（2009年）、高齢・障害者等の特別処遇対象者の収容指定施設になり、福祉担当職員（看護師）を採用する。
- 平成24年（2012年）、経済的自立による社会復帰と薬物依存症からの離脱を目的として、薬物離脱指導「ローズカフェ」プロジェクトを開始する。
- 平成25年（2013年）、薬物処遇重点更生保護施設に指定される。専門職員を採用し、認知行動療法に基づく離脱指導を実施する。
- 平成25年（2013年）、常習窃盗事犯者のためのカウンセリング方式による離脱指導「リ・コネクト」プロジェクトを開始する。
- 平成27年（2015年）、シェアハウス型生活支援施設「早稲田荘」を開設する。
- 平成27年（2015年）、特定非営利活動法人「両全トウネサーレ」が東京都に認証される。
- 平成27年（2015年）、特定非営利活動法人「両全トウネサーレ」が指定障害福祉サービス事業者指定される。

2 施設概要

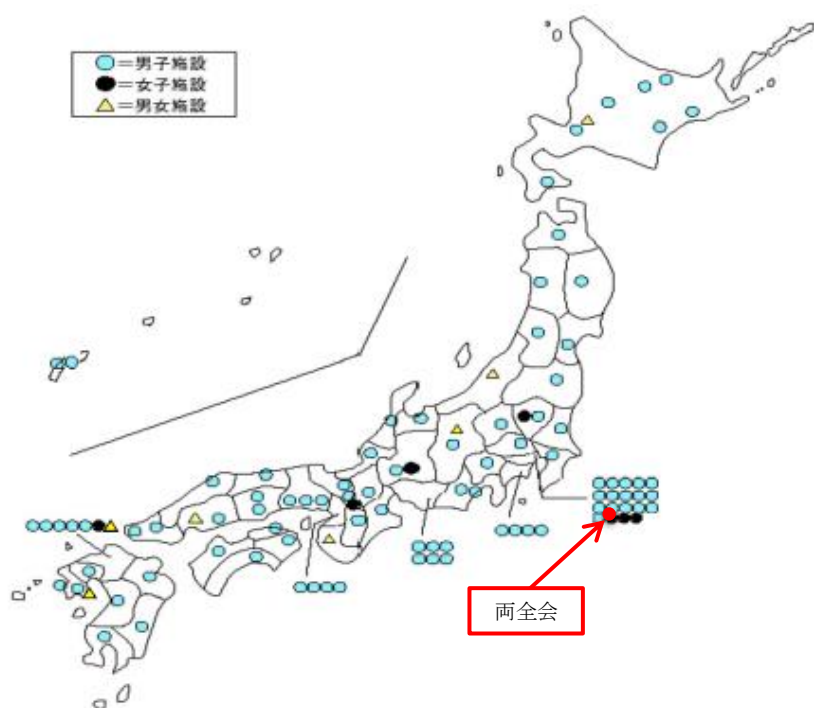
- 定員： 女性20名（うち、女子少年3名）
- 部屋数： 12（1人部屋：7，2人部屋：3，集団部屋：2）
- 延べ面積：敷地：363.65㎡
建物：587.12㎡（5階鉄筋造）



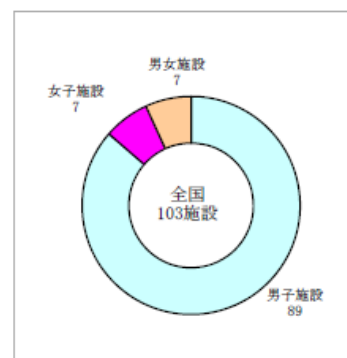
部屋：集団部屋（左）・1人部屋（右）

3 更生保護施設の状況

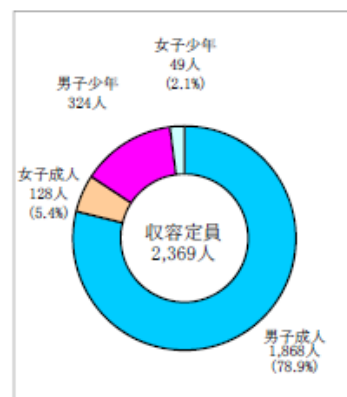
—施設の所在地，数，定員（2017年1月1日現在）—



【更生保護施設の数】



【更生保護施設の収容定員】



平成 2 8 年度被保護者状況

1 年間延べ人員, 1 日平均人員, 保護率, 平均在所期間

延べ: 5, 9 0 6 名 1 日平均: 1 6 . 1 8 名 保護率: 8 0 . 9 0 %
 退所者の平均在所日数: 4 か月 6 日

2 受入施設

札幌	福島	栃木	笠松	和歌山	岩国	美祢	麓	立川	加古川	観察所	合計
4	9	1 4	5	1	2	1	1	1	1	1	4 0

3 罪名

覚せい剤	窃盗	殺人	詐欺	強盗	保護遺棄	傷害致死	売防	道交法	建造物侵入	合計
1 9	9	5	2	0	1	1	1	1	1	4 0

4 年齢

16～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳～	合計
0	3	7	1 6	9	4	1	4 0

5 月別入所者

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
6	4	2	3	2	2	3	4	3	3	5	3	4 0

6 退所時の帰住先

親族	知人・友人	下宿・借家等	就職先	福祉施設等	観察所	その他	合 計
1 0	7	1 8	2	2	0	6	4 5

7 退所者の在会期間

1 0 日未満	1 月未満	3 月未満	6 月未満	1 年未満	2 年未満	合 計
1	5	4	2 4	1 1	0	4 5

8 退所時の就職状況 (就職率: 8 4 . 4 4 %)

客室清掃等.	事務	調理補助等	販売	介護	無職等	合 計
1 6	1	1 5	7	2	4	4 5

両全会の運営

(1) 運営の概要

両全会は、宿泊型の施設を有し、対象者に対し、日夜改善更生に向けた補導指導を行っている。

私達は、①住居、②就労、③ケアの三点セットを提供することにより、対象者の可能な限り早い自立と社会復帰を図り、再犯防止を実現することを目標としている。

更生保護戦後最大の変革期にある現在、当会では、①完全就労、②パソコンの個別貸与による徹底的なパソコン教育、③情操的な面に着目した人間性の回復教育、④認知行動療法に基づく薬物離脱指導、⑤常習窃盗事犯者のためのカウンセリング方式による離脱指導といった競争力の高い処遇サービスの提供に力を入れている。

さらに、平成25年6月には両全会は薬物処遇重点更生保護施設に指定され、刑の一部執行猶予制度の開始を見据えた処遇体制の充実に努めている。

(2) 保護率向上に向けた取り組み

当会は、仕事を見つけやすい立地条件の良い場所にあり、できるだけ多くの寮生に自立の機会を与えるため、定員20名を目標に保護している。このため、生活環境を入念に整えた上で、寮生を積極的に受け入れている。

また、平成21年度当初に、高齢・障害者等の特別処遇対象者の指定施設となったことから、福祉担当職員（看護師）を採用し、日常的にこうした対象者を受け入れている。

(3) 完全就労に向けた徹底的な就労指導

仕事の探し方、面接の受け方等の徹底的な就労指導により、医療上の理由により仕事に就くことができない者を除き、ほぼ全員の完全就労を実現している。

就労方法は、7割が求人雑誌、残り3割がハローワーク及び協力雇用主で、職種としては、清掃、調理補助、ホールスタッフ、販売員が多い。高齢等の理由により、一般の事業所で働くことが困難な者に対しては、東京拘置所内にある当会が所有する売店にて就労することができる。

平成23年7月から公的機関の矯正施設等への清掃作業に清掃業者経由で就労させている。なお、就労の安定化を図るために協力雇用主の拡大に努めている。



専門的知識を持ったボランティア講師によるパソコン教室（ワード・エクセル）



民間ボランティアの方々によるクリスマスパーティー



職員手作りの食事（平日朝・夕）を全員で



高齢や障害のある利用者向けに浴場に手すりを設置



両全会職員が履歴書の書き方を指導



ハローワークでの求職活動に両全会職員が同行

(4) さらなる処遇サービスの向上

再犯防止のためきめの細かい処遇（個別指導の徹底）を行っている。平日の朝、夕、全員で食事を共にするなどの家庭的、文化的な処遇環境の下で対象者の情操を高め人間性の回復を図っている。

さらに、生活指導（挨拶・毎日15分の掃除・金銭管理等）を通じて対象者に基本的な社会生活習慣と社会の一員として適切な行動様式を習得させている。

平成21年度当初に「両全会処遇システム」を制定し、民間協力機関・民間協力者（現在四十数名）の支援・協力を得てパソコン教室（希望者全員にパソコンを貸与し、週1回民間協力者の講師が指導）、美容教室、法律相談、少年相談等の多様なプログラムを実施している。これらのプログラムには随時改良を加えており、充実した処遇の提供に努めている。

当会対象者の多くを占める薬物事犯者（平成28年度入所者では約半数）に対して、平成24年、臨床心理士伊藤絵美氏らと認知行動療法による薬物離脱指導「ローズカフェ」プロジェクトを開始した。対象者は退会後の3年間、就労し自立した生活を送りながらこの離脱指導を受けることができる。

また、当会はこの他に、平成25年に薬物処遇重点更生保護施設に指定され、専門職員を配置し、認知行動療法による離脱指導を行っている。

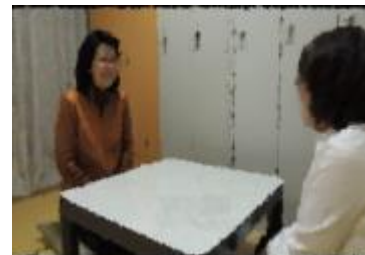
平成25年、藤野京子早稲田大学教授による常習窃盗事犯者に対する心のケアを通じた離脱指導「リ・コネクト（再社会化）」プロジェクトを開始した。

平成27年、当会は生活支援施設「早稲田荘」の運営を開始した。早稲田荘では、寮生のうち、お金が十分になく、自立した生活を送ることが困難な者が、安い家賃で部屋を借り、両全会の職員から助言を受けることができる。

さらに、平成27年、特定非営利活動法人両全トウネサーレは、指定障害福祉サービス事業者指定され、軽度精神障害者向けのグループホームの運営を開始した。



毎朝15分の掃除



カウンセラーが母親の立場になり話を受け止める少年相談



認知行動療法による薬物離脱指導「ローズカフェ」プロジェクト



常習窃盗犯のための個別カウンセリング「リ・コネクト（再社会化）」プロジェクト



両全トウネサーレによって経営されている軽度精神障害者のためのグループホーム



(吉川幸利『参宮橋界限の秋』)

両全会の社会復帰支援活動

発行日 : 平成29年9月12日

編集責任者 : 小畑 輝海

編集 : 木下 登志美

黒田 知史

出版 : 更生保護法人 両全会

Tel : 03-3468-1639

Mail : rzk1917@inetmie.or.jp